

しずおかの魅力を発信するTIPSのおすすめ

すごい興津を歩いて、 目も口もしあわせ

今号は、東海道宿場町十七番目の「興津」。

かつては、風光明媚な海岸線が人をひきつけた。

鉄道ができたため、明治時代には政治家・

西園寺公望公などの超有名人が、避寒地として

別荘を持っていたことから、多くの人が「興津詣で」

に訪れにぎわったというが、海岸線が埋め立てられて、

今は住宅が立ち並び、昔のにぎわいはどこかに

いつてしまったかと思っていいたら、

どうも、興津がすごい。

春の日差しをうけて、

ブラブラと歩いてみよう。



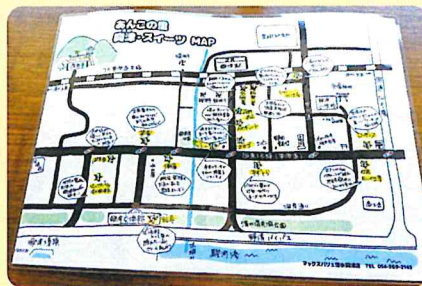
興津は「あんこの里」！

おはぎ、羊かん、どら焼き、まんじゅう〜みんなあんこが主役で、和菓子になくはないもの。そう、日本の製あん業発祥の地が、なんと、興津だった。

明治時代のこと。興津承元寺に生まれた北川勇作と内藤幾太郎の2人が大阪で製餡機を製造し、全国の和菓子職人に機械を使ったあん作りの指導をした。労力のいる手作り作業だったあん作りが、機械化されて大量生産できるようになったことは、和菓子界の革命といえたそうだ。すごいことだったのだ。八幡神社入り口に、2人の顕彰碑が立つ。



■ 製餡機開発 発明者 功勞碑



■ 興津スイーツマップ

承元寺地区の、家を継げない次男・三男たちは、売れた餡製造機の職人として全国各地に出かけていき住みついた一土地もあまりない承元寺地区の人たちが作り上げた、生きていくためのシステムだった。これもすごいことだった。

残された地元の人たちは、それぞれに工夫をした「自家用あん」を作った。今、興津の町を歩くと、あん菓子がたくさん目につく。甘党にはたまらない所だ。行ってみる？



■ 伏見たいやき店